

静岡新聞 2023年12月6日付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

国際会議でスペインのサラマンカという所に来ている。首都マドリッドから200キロほどのところにある古い大学町で、ユネスコの世界遺産に選ばれた有数の観光地である。歴史をうまく利用しながら街づくりをしていく事例としては参考になる話も多かった。

そうした中で印象深かったのは、自動車のライドシェア・サービスであるウーバーが活躍していることだ。ウーバーについてはご存じの方も多いだろうが、個人が所有する自動車でタクシードライバーのような送サービスを提供することだ。スマートフォンを操作するだけで客は車を呼ぶことができ、その車を運転するのは一般のドライバーだ。

日本では自動車のライドシェア・サービスは認められていないが、ウーバーイーツによる食品の配達サービスは普

# ライドシェア 期待と課題

及している中で、食料を運ぶかわりに旅客を運ぶものと考えればよい。スマホが普及することで、車や運転手を探している顧客と、利用者を探しているドライバーのマッチング(結び付き)が容易になっている。重要なことは、こうしたサービスが欧州だけでなく、米国やアジアなどで世界標準として広がっており、旅行者にとっても非常に便利な存在となっていることだ。

日本でも、この自動車のライドシェア・サービスの導入を認めるのかどうか大きな議論になっている。容易に想像できるように、タクシー業界はこのサービスを認めることに反対の立場だ。ライドシェア・サービスの拡大で、自分たちのビジネスが影響を受けることを懸念している。ライドシェア・サービスを利用できない人も、タクシードライバーを利用すれば簡単に車が呼べると主張している。

しかし、現状はそんなに悠長な話ができる状況ではない。深刻な人手不足によって、地方都市では、それも深夜や早朝には特に、タクシードライバーを確保することが難しくなっている。東京のような大都市でも、都心部はいいとしても、周辺部でタクシードライバーを確保することが難しくなっている。高齢者の足を確保することも難しくなっている。

かなりつつある。

そこで、日本でも本格的な車のライドシェア・サービスを認めるべきだという声が増えつつ大きくなっている。タクシードライバーやバスなどの公共交通機関の運転手を十分に確保できない事態は避けることができないので、それを補う上でもライドシェア・サービスへの期待も大きいのだ。ライドシェア・サービスは、高齢化や過疎化に対応するのに非常に有効な手法でもある。

もちろん、この誰ともわからない運転手の車に乗るのは不安だと考える人も多いだろう。新しい仕組みを取り入れることにはそうした不安が必ず伴うものだ。だからこそ、運転手や顧客によって違法な行為が行われないような仕組みづくりが必要ではある。

アジアでライドシェア・サービスを立ち上げたGrabという会社の女性経営者が言っていた。かつてはインドネシアなどで、女性にとってタクシーに乗るのは不安だった。そこで高級な車を利用して少し料金の高いライドシェア・サービスを立ち上げたところ、その質を高く評価する顧客が集まったという。ライドシェア・サービスの方がタクシーよりも質が悪いということでもなさそうだ。